

しが国際協力親善大使レポート

ひがし そうま
東 颯馬さん

隊次：2018年度1次隊

職種：野球

派遣国：ブラジル

自己紹介

滋賀県 近江八幡市出身 24歳

現在はブラジルのドウラードスという街で野球ボランティアとして子供たちに野球の指導をしています。少年時代は2人の兄の影響で保育園の頃から兄と共に地元の少年野球チームによく行き野球をしていました。本格的にチームに入り小学校2年生の7歳から高校3年生まで野球に没頭する日々を送っていました。高校では残念ながら甲子園には出場できませんでした。高校時代に海外で野球を指導して世界中に広めていきたいという夢ができました。

大学はアメリカの大学に入学し3年間カリフォルニア州サンディエゴという街で過ごしました後、日本に戻り日本の大学で2年間通いました。大学時代もその夢は消えることなくむしろ思いが強くなり大学卒業後はJICAボランティアに参加しようと決意しました。そして、大学を卒業してJICAボランティアに応募しました。

活動している国、地域の気候や文化の紹介

私の任地のドウラードス市はマットグロッソ・ド・スル州で2番目の街ですが、街の雰囲気は日本の田舎と似ています。気候は1年通して温暖で日本とは季節が逆になります。7、8月の夜は少し寒くなる時はあります。街には日系人の人がたくさん暮らしており日本語をしゃべれる人がたくさんいます。そのため、日本食や日本文化などが根付いています。日本祭りで太鼓、盆踊り、カラオケを披露したりブラジルにいても日本を感じる事がたくさんあります。

活動や生活について

私の主な活動は子供に野球の技術を教えることやあいさつや道具を大切に扱うなどの人間教育を野球を通して教えることです。そのほかに、現在は野球をする子供が少ないので、子供を増やすための活動なども行っています。当たり前のことですが、日本の常識がブラジルでは通じないことが多くあります。練習がめんどくさいからさぼったり、普通に遅刻してくる子がいたり道具を大切に扱わないなど問題が多くあります。だから、色々工夫しなければいけません。たとえば、練習に来ない子がいれば家まで迎えに行ったり、時間に遅れたらいつもより多く走らなければいけないルールを作ったり、アップ代わりにサッカーをやってみたり、人数が少ないがルールを少し変えて紅白戦をしてみたりと思いついたことを色々挑戦しています。そこで、失敗すれば学べるし、成功すれば続けていけばいいわけです。5ヶ月が経ち感じたことは大切なことは言い続けることが重要だなと感じました。私が赴任してきた時は道具を投げたりして大切に扱わない、グラウンドにゴミがあっても拾わない、私がしゃべっている時にチームメイトとしゃべり遊んでいるなどのことが多々ありました。しかし、最近では毎回練習終わりに同じことを子供達に言い、それを子供達自身にも言わせています。そして、練習中でもたびたび言っています。そうすると少しずつ変化が見えてきました。道具を投げなくなったり、ゴミを拾うようになったり、話を前よりもしっかり聞くようになったりするようになりました。正直まだまだで少しだけですが変化が見られてとても嬉しかったです。1回言うだけじゃあ忘れてしまいます。だから、大切なことは言い続けて伝えることが大切であると思いました。そして、私の目標は子供達が野球を楽しみ野球を大

好きになることです。私自身野球が大好きになり、野球は私の人生に大きな影響を与えています。野球があったから今の自分があると切り切れます。だから、野球に出会えて感謝しています。子供達に野球を大好きになってもらい野球を通して幸せを感じてほしいと思い日々活動しています。



2018年最後練習で隣町のチームと練習試合をした時に撮った写真



青年の大会に出場した時にみんなで写真を撮ったもの



日本から持ってきた野球道具をプレゼントした時



投げ方の指導をしているところ



ビンゴゲームの最中の写真

しが国際協力親善大使レポート

ひがし そうま
東 颯馬さん

隊次：2018年度1次隊

職種：野球

派遣国：ブラジル

自己紹介

近江八幡市生まれ、7歳から地域の野球チームに入り野球を始め、高校まで野球を続けました。現在はこれまでの野球の経験を生かしてブラジルの子供達に野球を教えています。

活動している国、地域の気候や文化の紹介

ブラジルには110年程前に日本から多くの日本人がブラジルに出稼ぎに行き何も無い所から一生懸命に働き現在の大きな日系社会を築き上げてきました。私が活動しているドウラードス市は沢山の日系人の方達が住んでおり、もちろん日本人会も存在しています。私は主にその日本人会にある野球部で活動を行なっています。ドウラードスは1年を通して温暖な気候で夏は40度近くまで冬は寒い時で15度ぐらいです。この地域は大豆、トウモロコシの栽培や牛、鶏の家畜が盛んで少し街を離れると広大な土地が広がっています。

活動や生活について

私は野球隊員なので主な活動内容は子供達に野球技術を教えることですが、礼儀や挨拶など、人として大切な人間教育を教えることも大事にしています。そのほかにも野球人口を増やす活動などもしています。まず、着任して1番悩んだことは明確な責任者がいないことでした。だから、考えていたやりたい活動を誰に伝えたら良いか分からない状態になっており色々な野球関係者の方々に伝えていましたが、うまくいきませんでした。半年間はただ練習してるだけで大会にも参加しないし練習試合もなく野球人口を増やす活動もなく誰も協力してくれる人がいない状況でした。そして、野球関係者の中で会議が半年以上行われておらずこのままでは同じ状態がずっと続いてしまうと思い、私から呼びかけ、会議を行いました。会議中に大喧嘩が始まったりと大変でしたがなんとか明確な責任者が決まりました。それからは、問題となっていた大会への参加や子供や指導者が少ない問題にもよりスムーズに取り組めるようになりました。そこで、責任を持ったリーダーの存在がとても重要だと学びました。大変なこともあります。嬉しい出来事ももちろんあります。例えば、子供がどんどん上達していくのが目に見えてわかる事や着任当初少なかった子供の数が増えることなどがあります。特に嬉しい出来事は、グラウンドにあるゴミを自分から拾ったり、道具を綺麗に並べたり、初めて練習に来た子供にやり方を教えてあげたりと、私が教えている事しっかりと実行してくれる姿を見た時が1番嬉しくやりがいを感じます。逆に悲しい事ももちろんあります。伝えたい事が上手く伝えられない、道具を大切に扱わない、片付けをしない、平気で遅刻してくるなど、正直悲しい事や大変なことの多いかもしれません。それでも、少しずつ子供たちが成長していく姿をみるのは本当に楽しいです。そんな子供たちと共に私自身も成長させてもらっています。残りの期間も子供達とずっと成長していきたいと思えます。



練習のキャッチボール



大会参加したときの集合したときの風景



新しいボールをもらった時の写真